

文学部日本文学科

山内 洋 教授

最終講義



【プロフィール】

大正大学文学部日本文学科教授。専門は日本近現代文学研究及び文芸批評。

高校国語の定番教材である『山月記』（「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」ゆえに人喰い虎になった李徴の告白話）の作者である『中島敦全集』（筑摩書房）の編纂に二度かわる。長く高校の国語教員として勤務した後、現職。副学長としては大学の教学運営に携わった。「文学教育」や「高大接続教育」をライフワークとしている。

【テーマ】

日本語・日本文学教育の 可能性をめぐる最終対話

第1部 「文学作品を読むことにいったいどんな意味があるのでしょうか？」

『人が頭の中で考えたに過ぎない「小説」を読むことにいったいどんな意味や価値があるというの？わたしは現実に役立つことにしか関心がない』—かつてある人から言われた言葉です。しかしながら、そもそもわたしたちの眼前の「現実」を成立させている基盤が何かを問うことにはとても意義がありますし、「役立つこと」（「私」や「皆」にとって良いこと、良いもの）の条件を問うことはさらに大切です。文学とは、じつはそうした高度な有用性を抱いた「実学」であることを皆さんとともに考えてみたいと思います。

第2部 「高校国語教育・マスメディアとの対話」

芝浦工業大学柏中学高等学校 高澤良輔 先生、日本経済新聞編集委員兼論説委員 中丸亮夫 氏
日本文学科教員 中川祐治（司会進行）・田中仁



【日時】令和8年2月24日(火)16:00～18:00

【場所】5号館8階 鴨台食堂 *15:40 開場

*当日、茶菓をご用意いたしますので、QRコードよりお申し込みください **【2月3日(火)締切】**
お問い合わせ先：日本文学科事務室(nihon_bungaku@mail.tais.ac.jp)